

2021、9月号

ハノイ日本人学校 学校便り

こころの道

令和3年9月1日

Nhan hieu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく

ニャンハウ

かしこく

トンミン

たくましく

ホーエマイン



校長 明石清二

東京オリンピック・東京パラリンピック

9月6日(月)に第2学期始業式を行います。画像を提示しながら話す骨子は下記のように考えています。

「5月からのオンライン授業がかなり長くなりました。皆さんの体調の変化や友達と会うことができない不安な気持ちなど、とても心配です。



オンライン授業を続けながら、もしかすると皆さんを登校させられるかもしれないと考え、『校舎の清掃をし消毒をする、全日登校だろうか隔日登校だろうか、授業はどんなふうに行う・・・』など、先生方で何度も何度も打合せをしました。まだ、登校はできませんが、今は自分の力を十分に蓄える時期と捉え、互いを思いやりながら頑張りましょう。

今日は、東京オリンピック・東京パラリンピックについて話をします。開催については、賛否両論がありますので、ここでは出場した選手やスタッフのことについて話をすることにします。

東京大会新種目のスケートボードでは、13歳で日本選手最年少となる金メダリストが誕生し、10代の活躍が目立ちました。この金メダリストはメダルを置く場所について『自宅のリビングに飾りたい』と話し、家族とともに過ごす場所に飾るという家庭の温かさを感じさせました。選手の中には、毎日7時間練習したことや不良少年と思われていたと話す様子も報じられていました。

『決めたあ！13歳！真夏の大冒険！』というアナウンサーの名言も残りました。

1992年のバルセロナ大会の競泳で、14歳の金メダリストが誕生したときの驚きとは異なる感動がありました。もちろん、競技種目によって年齢制限があるわけですから一概には言えませんが、若い選手が活躍する姿に明るい未来を感じることができます。

馬術においては80歳になる日本人選手に注目していましたが、今回の東京大会出場はかないませんでした。前回の東京オリンピック(1964年)に23歳で出場。製薬会社の社長を務めた後に競技に復帰し、2008年(67歳)北京大会で44年ぶりに出場を果たしました。このときに私は大変驚いたのですが、その後2012年(71歳)ロンドン大会に出場、最高齢記録がかかった2016年(75歳)リオデジャネイロ大会にも出場予定でしたが、パートナーの馬が体調不良のため出場できませんでした。文字どおり、『人馬一体』とはこのことだと痛感しました。

110メートルハードルに出場したジャマイカの選手は、準決勝で乗車するバスを間違え競泳会場に行ってしまいましたが、大会スタッフのおかげでレースに間に合い、決勝では金メダリストとなりました。日本人の女性スタッフが機転を利かせ、タクシー代を渡したのおかげで国立競技場にたどり着くことができたそうです。



走り高跳びで、全く同じ成績で並んだ両選手は、決着するまで1回ずつ跳躍する『ジャンプオフ』の実施を告げられると、選手の一人は「金メダルを二つもらえないか？」と提案。その答えは『イエス』でしたので、二人そろって金メダルの栄光に輝きました。

ヒマワリの花をはじめとするオリンピックとパラリンピックのビクトリーブーケは、福島県、宮城県、岩手県、東京都のものが使用され復興の象徴である東北の花でまとめられています。東北の復興は形の上では整えられてきましたが、心の復興はこれからが正念場だと考えています。

パラリンピックは、もともとは『Paraplegic Olympic (対麻痺者のオリンピック)』という意味でしたが、のちに『Parallel Olympic (もう一つのオリンピック)』という意味に変わりました。

初めての国際的な障がい者スポーツ大会は、1924年に開催されています。パラリンピックの前身となる大会が始まったのは1948年のことです。ロンドンにある病院内でリハビリのための競技会として、車椅子によるアーチェリー大会が行われました。その後、1960年のローマ大会が第1回目のパラリンピックと位置付けられ、1988年のソウル大会で初めてパラリンピックの名称が使用されました。また、名称だけでなく、オリンピックで使われた試合会場がパラリンピックでも使用されるなど、オリンピックとの連動も行われました。この頃には、パラリンピックの解釈の仕方が変わって“もう一つのオリンピック”となり、現在のパラリンピックの形へととなりました。

オリンピック・パラリンピックともに選手たちのたゆまぬ努力と献身的なスタッフのおもてなしに敬意を表します。



コロナが蔓延する中、皆さんもなかなか思いどおりに行動できませんが、下を向いていたのでは進歩がありません。青い空を見上げながら、皆さんも自分の夢をしっかりと持ち続け、今、できる努力を継続していきましょう。皆さんと会える日を楽しみにしています。

登校準備

7月12日(月)に登校を再開できるのではないかと考え、「教室内外の清掃とトイレ等も含めた消毒、全員に登校できる全日登校案やバス乗車率50パーセント以下の規制緩和が行われない場合の学年ごとの隔日登校案の作成、そしてその場合の乗車名簿の作成、感染リスクを最小限に抑えるための校内生活上の配慮事項、各教科の特性に合わせた授業形態の工夫、特に体育科の授業人数や学習内容の工夫、音楽科の歌唱指導等の配慮、校内発症時の初期対応、各行事の実施可否を含めた内容の検討、医師による健康診断の実施、各家庭での徹底した健康観察の依頼など」について、何度も何度も話し合いました。

その後8月16日(月)以降、さらには8月23日(月)以降にも登校できるのではないかと考えましたが、結局は「待ち」の状態。詮方無し。

現地校でも9月6日(月)からのオンライン授業が確定し、7~10日間、1年生の指導を徹底するよう指示が出されています。今後は現地校の状況を鑑みながら、本校の登校再開日を決定します。

過日、話をした方は、「漁師は荒天のとき、黙々と網の補修をし、来るべき日に備える」と教示してくださいました。言い得て妙。世相をよく表しています。

教職員一同、これからも精一杯努力をしてみたいです。

保護者の皆様には、今後も御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

